

# 天の舞臺

コーネリア、W・マクリア

「坊や！」と母熊が、或る日、自分の子熊に言ひました、

「今日の午後、學校が濟んだら、すぐ家へ御歸りよ、

少し早い目に御茶を頂いて、それから私たち二人は、

舞臺さ Zoo さへ行つて、半日遊びませう。」

子熊は逆立ちして、大喜びで跳りました、

舞臺さ動物園さには、よほど前から行きたかつたのだ、

白鳥の話も度々聞いてた、龍やらあの、羽馬の、

ペカソスの話も、鷲も、鯨も。

そこで二人の熊は手を引き合つて出かけた。ズーへ着くと、

入口にはオリオンが居まして、親切に中へ通しました。

處がずつと中へ參りますと、二人は何んなものを見たでせう！

大熊は面白さうに見てゐましたが、小熊は怖がりました。

目の前に圓い舞臺があつて、たつた今競走が始まりました、

センタウルと、羽のある、馬との。馬が勝つた！

そこに巨きなヘルグレスが立つてゐる、何千貫とも知れない、

重い棍棒を、さも易々と振りかざして。

するま向ひには、美人が一人、立派な椅子に座つてゐて、

頭には寶玉の冠を、黄金の髪の上にかぶつてゐる、

あたりは一面に、ズーの中の動物だらけ、

獅子や麒麟や鯨や鷲や、

オリオンの犬のシリウスも居れば、其の傍の人込みの中には、

牡牛が立つてゐて、熊たちに言ふには「君たちも歩けや。」

「有難う、」大熊は返事しました、「遅くなりますから、

これ、坊や、急いで、も早や、行く時刻ぢや、

まゝころが、入口に来て見ると、オヤ！すつかり閉まつてゐる。

オリオンが言ふには「何としても、今夜は開かない、

なんぞ、君達も、僕等と此所に滞在してはごうぢや、

僕等皆の望みだから、仲間に入れや。」

僕は君達を檻に入れて、あちらこちら引きまはしはしないよ、

何でも好きな地位をやる、座頭でも端役でも、

僕も此役を辭職したいのぢや、今すぐにも。然し、兎角一寸、

先づ柱によち登ることを、やつて見たらよからう。」

若し此の熊の返事が、知りたいと思召さば、

頭の上を見て御覽、暗れた夜、彼等は空に見えますから、

星々の中に輝いて、彼等は容易く見付けられます、

丁度、美人の椅子の向ふ側を、いつ迄も、ぐるぐる廻つて。